



舟渡小だより

令和7年度 7月号

令和7年6月30日

板橋区立舟渡小学校
校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

舟渡の心

副校長 松川 清

『これからも地域の方々や保護の皆様、教職員とともに舟渡小学校の子どもたちとの間に多くの「心の渡し舟」を渡していき、気持ちのよいあいさつで溢れる学校にしていきたいです。』

これは、一昨年度の学校だよりの巻頭言の結びに書いた文です。あれから2年が経ちました。

今年度もリバーサイド舟渡さんによる「舟渡ラーメン提供事業」が6月21日（土）に行われました。子どもたちの中には、「やっぱり、舟渡ラーメンはおいしいんだよなあ。」としみじみうなりながら食べる姿もありました。そのうなるほどの味の裏には秘密があったのです。

今回のラーメン提供事業の提供開始時刻が朝の予定より15分遅れました。予定時刻直前にスープの出来具合をチェックする場面を見ていました。すると、「いや、まだ舟渡ラーメンの味になってない。すいません。あと15分待って。」と最終確認の担当者の方が伝えてきました。15分後再度出来具合をチェックした担当者の方が頷き、ラーメンの提供が始まりました。ここには、「舟渡ラーメン」へのこだわりと舟渡小学校の子どもたちに「本物の舟渡ラーメンを食べて欲しい」という「心」が込められていることを感じました。

また、6月27日（金）には、志村第五中学校との小中合同あいさつ運動が行われました。志村第五中学校の生徒会役員と本校児童会及びボランティアの児童が正門に並び登校してくる児童を元気なあいさつで迎えました。志村第五中学校の生徒会役員には本校の卒業生も多く、舟渡小学校の児童も懐かしいお兄さんお姉さんに会えた喜びも合わせて元気にあいさつを返していました。その場に居合わせた授業ボランティアの保護者からは、「この数年で子どもたちが本当にあいさつをしてくるようになった。」「今日のあいさつはいつもより元気がいいですね。」という声もいただきました。ここからは、「響きあう学びのエリア」として続いている小中合同あいさつ運動で「元気なあいさつで気持ちよく1日をスタートしてほしい」という「心」が伝わり、繋がったことが感じられました。

これからも、これらの「舟渡の心」を大切に伝え合い、繋げていける学校として教育活動を進めていきます。引き続きよろしくお願いいたします。

